

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：32688

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13191

研究課題名（和文）格差貧困に抗する成人基礎教育学にむけて 領域横断的な共同探求ネットワークの構築

研究課題名（英文）Towards the construction of adult basic education studies against disparity and poverty, a networking of cross-subjects collaboration.

研究代表者

岩本 陽児（IWAMOTO, Yohji）

和光大学・現代人間学部・教授

研究者番号：10350357

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：日本の教育は世界一との見方がある一方、じつは多くの人が義務教育を終えることができておらず、この実態を明らかにする統計調査さえ行われていません。義務教育未終了の原因はさまざまですが、近年は、いじめ・不登校や無戸籍者の問題などもあり、現在進行形で未修了者が生み出されています。こうした人々の学びの機会を拡充し、幸福追求のための再チャレンジが可能となるような社会を作るために、さまざまな領域の人々がつどい、基礎教育保障のための新たな学会を立ち上げました。

研究成果の概要（英文）： There a certain public image about an achievement of the Japanese education as world No.1, however, not only many people have not finished their compulsory education in fact but also there have been no statistics to identify this fact. The reasons of not finishing school education varies. School bullying is an important cause. Those who not registered to the state have no access to school education. The issues are indeed very current, not of the past. In order to enlarge the chance to access basic education and to enable to obtain second chance for happiness we have set up a new academic organisations consisted not only by researchers of relating subject, but also by educators, volunteers and learner themselves.

研究分野：社会教育学・生涯学習論

キーワード：基礎教育保障 夜間中学 公立中学校夜間学級 自主夜間中学 識字 定時制中学 学びなおし 再チャレンジ

1. 研究開始当初の背景

(1) 全国夜間中学研究会(全夜中研)は、戦後の発足当初から公立中学校夜間学級(以下、夜間中学)の法的な位置づけを求めてきた。日本弁護士連合会による人権救済申し立てにもかかわらず、抜本的な進展が見られなかったことから再度、立法運動への取り組みを開始していた。

(2) 夜間中学および自主夜間中学の教育実践に注目してきた社会教育研究者の呼びかけにより、国内および韓国の識字教育(文解教育)研究者、夜間中学関係者がコアメンバーとなり、夜間中学の拡充運動を研究的側面から支援するための基礎教育学会(仮称)構想・懇話会を2014年度中に発足させ、2月に基礎教育学会(仮称)設立準備会と名称を改めたところであった。

(3) 社会的背景として、新自由主義政策の下での国内社会の二極化の進展がある。諸般の事情から下位に置かれている人についても、適切な学習支援により第二のチャンスが与えられることは、社会的には納税人口の増加をもたらし、犯罪率を低減させるものと考えられた。

2. 研究の目的

(1) 現代日本の格差・貧困に抗する成人基礎教育学を創設すべく、領域横断的な共同探究ネットワークを構築することを、本研究の目的とした。成人基礎教育とは、成人として当該社会で生きていくうえで最低限必要な知識と技能の習得支援を指す。欧米諸国では、識字教育、失業者の就労支援、移民の語学習得支援などを対象とするこの領域は、政策的にも研究的にも教育の主たる領域のひとつとして位置づけられ、発展が図られてきた歴史を持つ。しかし本邦の場合、未確立のままである。

(2) 近年、子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成25年法律第64号)、生活困窮者自立支援法(平成25年法律第105号)等が成立した。こうした中で、格差・貧困問題の教育的開発に向けた原理・方法・政策・歴史に関するアカデミックな探求の継続的な蓄積が、実践の質向上に不可欠となるとの現場の声を受けて、本研究は構想された。

(3) 本研究が最終的に目指したのは、「日本成人基礎教育学会(仮称)の設立であった。

3. 研究の方法

(1) アクションリサーチ 本研究が試みる「成人基礎教育学」にむけた教育・福祉・労働にまたがる領域横断的な研究と実践の共同探究ネットワークを形成していく試みは、その過程で貴重な経験値を生み出すことが期待された。定例研究会の議事録、メイリングリストやホームページの活用方法、ネットワーク形成時に直面した困難に関する困惑、解決のための営みを丹念に記録化していく。こうした経験知識を検証し、共有可能な形で

残していく。すなわち、アクションリサーチとして本研究の過程を描いていく。

(2) 国内調査 わが国で成人基礎教育にかかわる研究と実践の共同探究ネットワークを形成すべく、福祉や労働党の関連領域との接点把握に関する調査研究を行う。具体的には、識字学級、夜間中学、日本語教室、生活困窮者支援、外国人の生活・学習支援を予定した。

(3) 海外調査 わが国で成人基礎教育学を構想する際に不可欠な視点や、ネットワークのあり様を探るべく、先進事例の調査を行うこととして、当初、英国、韓国の調査を予定した。

4. 研究成果

(1) アクションリサーチに関しては、満足のいく成果を収めることができた。

研究初年度には、以下の会議を開催して議事を重ね、格差貧困に対抗する基礎教育保障のための、多様な知的バックグラウンドの研究者と実践者(ステイクホルダー)のネットワーク化による新たな学会作りの準備を進めてきた。

第二回準備会 5月、筑波大学東京キャンパス文京校舎に16名が参集。

第三回準備会 7月、大阪産業大学大阪駅サテライトに33名が参集。

第四回準備会 9月、筑波大学東京キャンパス文京校舎に17名が参集。丁寧な検討の結果、学会名を当初案から変更し、「基礎教育保障学会」とすることがより適切との合意に至った。

第五回準備会 11月、福岡大学に9名が参集。

基礎教育保障学会(仮称)準備会・拡大世話人会 2016年1月、学びリンク社(東京、市ヶ谷)会議室に13名が参集。

第六回準備会 徳島市ふれあい健康館に14名が参集。(議事に先立ち、徳島市教委主催「徳島教師塾」に合流。)

研究2年目には、以下の会議を開催した。

第七回準備会 5月北海道大学教育学部会議室に29名が参集。

第八回準備会 7月中野サンプラザ会議室に23名が参集。終了後記者会見。

第五回以降の準備会を、九州、四国、北海道と全国展開して、各地で取り組まれている自主夜間中学を応援しつつ、ネットワーク化を進めた。これら会議については丁寧な記録を起こし、出席できなかった人とも共有が可能な状態とした。メイリングリストには約50名の登録があり、つごう6回発行したニューズレターは、普通教育保障に取り組んでいる超党派議員連盟所属の国会議員とも共有した。

8月21日に、国立国語研究所(立川市)を会場に全国から150名の参加を得て、学

会設立大会（設立総会と研究大会）を開催した。

来賓あいさつ 文科事務次官、前川喜平氏
全国夜間中学研究会、須田登美雄氏

基調講演 大安喜一氏（元ユネスコ、ダッ
カ事務所。岡山大学教授）「アジアにおける
基礎教育の完全普及に向けて」 見城慶和氏
（元、夜間中学教諭）「夜間中学の生活基本
漢字381文字」

ポスターセッション

8名によるリレートーク（社会教育、日本
語教育、識字、公立夜間中学、自主夜間中学、
子どもの貧困対策、生活困窮者支援、障がい
児の教育保障の立場から）等

（2）国内調査については、ネットワーク形
成に必要な情報を収集することができ、有益
であった。

（3）海外調査 予算的な制約から、展開が
不十分であった。本邦の国立国会図書館に相
当する台湾省国家図書館（台北）を2017
年1月に訪問し、文献収集にかかわるパイロ
ット調査を行うことができたことは、今後に
とって有益であった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線）

〔雑誌論文〕（計 20件）

新矢麻紀子「日本語ボランティア活動から
みえる移住外国人への言語学習支援の現在」
『プロジェクト共同研究「福祉・人権概念の
展開と歴史認識の転換」』産研叢書 38、第 6
章、大阪産業大学産研研究所、査読無、2015、
pp113-130

藤田美佳「奈良教育大学における人権教育
の取り組み-『夜間中学』、性的少数者（セク
シャル・マイノリティ）に関する学習を中心
に」国立大学法人奈良教育大学次世代教員養
成センター『次世代教員養成センター紀要』
査読なし Vol.2、2016、pp.317 - 321

関本保孝「夜間中学で学ぶということ」『月
刊社会教育』、査読なし、Vol.60、No.1、2016、
pp.60 - 63

工藤慶一「札幌円融塾自主夜間中学の26
年と未来」『月刊社会教育』、査読なし、Vol.60、
No.2、2016、pp.60 - 63

榎本博次「松戸自主夜間中学の33年とこ
れからの展望」『月刊社会教育』、査読なし、
Vol.60、No.3、2016、pp.62 - 65

野川義秋「埼玉の夜間中学運動30年」『月
刊社会教育』、査読なし、Vol.60、No.4、2016、
pp.60 - 63

岩本陽児「日本の教育に新時代を画する！
基礎教育保障学会の創立」『月刊社会教育』、
査読なし、Vol.60、No.5、2016、pp.42 - 48

太谷一代「福島駅前自主夜間中学と夜間中
学設立運動」『月刊社会教育』、査読なし、

Vol.60、No.5、2016、pp.54 - 57

見城慶和「夜間中学校における『生活基本
漢字』の剪定とその指導」『月刊社会教育』、
査読なし、Vol.60、No.6、2016、pp.58 - 61

藤田美佳「水原市民学校の設立と実践-初
代校長のライフストーリー・インタビューを
ふまえて」、東京・沖縄・東アジア社会教育
研究会編『東アジア社会教育研究』、査読有、
Vol.21、2016、pp.108-118

添田祥史「社会教育研究における実践の理
論化とフィールドワーク 「解釈」から「翻
訳」へ」『日本の社会教育第60集（日本
社会教育学会年報）社会教育研究における方
法論』2016、pp.100-111

関本保孝「生徒の生活実態を踏まえた夜間
中学での日本語教育」『月刊社会教育』、査読
なし、Vol.60、No.7、2016、pp.58 - 61

中川理恵「夜間中学の学校行事・昼間学校
との交流について」『月刊社会教育』、査読な
し、Vol.60、No.8、2016、pp.64 - 67

岡田敏之「『学びの原点』を追究する」『月
刊社会教育』、査読なし、Vol.60、No.9、2016、
pp.56 - 59

向井留実子・新矢麻紀子・高橋志野、「国
際結婚移住女性の書字言語習得支援に関す
る一考察 ソーシャル・サポートという視点
から」*Journal CAJLE* vol.17、2016、Canadian
Association for Japanese Language
Education、査読有、pp.44-62

Erik Jacobson（著）・新矢麻紀子（訳）「米
国の成人教育がかかえる現代的緊張関係」
『部落解放研究』205号（特集 識字・基礎
教育保障の動向と課題）2016、一般社団法人
部落解放・人権研究所、依頼論文・依頼翻
訳、pp.182-192

新矢麻紀子・榎田洋平「日本語教室不在地
域における国際結婚移住女性のリテラシー
補償と社会参加：生活史と学習環境に着目
して」『大阪産業大学論集 人文・社会科学
編』26号、2016、大阪産業大学、査読有、
pp.37-52

庄司匠「『花咲け出愛スピーチ大会』から
見た夜間中学」『月刊社会教育』、査読なし、
Vol.60、No.10、2017、pp.62 - 65

澤井留里「キャッチャーです、教師は」『月
刊社会教育』、査読なし、Vol.60、No.11、2017、
pp.60 - 63

須田登美雄「夜間中学の未来」『月刊社会
教育』、査読なし、Vol.60、No.12、2017、pp.54
- 59

<学会発表>

<学会発表(招待講演)>

Makiko Shin'ya "Japanese Literacy Education for Immigrants and Minorities in Japan: From the Viewpoint of Social Justice and Equity" TESOL Talk, 依頼講演, San Francisco State University, 2017年2月8日

=ご参考=

新矢麻紀子「海外の事例等を踏まえたコメント(課題、展望)」(コメンテータの依頼)
野山広(コーディネータ(企画、司会))、常盤木祐一、関本保孝、岩槻知也、高橋清(パネリスト)、新矢麻紀子(コメンテータ)
『基礎教育を保障する共生社会の構築に向けた課題と展望～多様な教育機会確保法の成立、施行を踏まえて』(ミニシンポジウム) 移民政策学会 2017年度年次大会 2017年5月27日 成城大学

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 2件)

添田祥史「釧路自主夜間中学『くるかい』」、岩槻知也編著『社会的困難を生きる若者と学習支援 リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』、明石書店、2016、pp.83-101
添田祥史「すべてのひとに教育を！基礎教育保障学会設立」、松本伊智朗・湯澤直美・平湯真人・山野良一・中嶋哲彦編著『子どもの貧困ハンドブック』2016年、かもがわ出版、pp. 137-140

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 基礎教育保障学会 HP
<http://jasbel.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩本 陽児 (IWAMOTO, Yohji)
和光大学・現代人間学部・教授
研究者番号：10350357

(2) 研究分担者

添田 祥史 (SOEDA, Yoshifumi)
福岡大学・人文学部・准教授
研究者番号：80531087

石井山 竜平 (ISHIYAMA, Ryuhei)
東北大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号：30304702

新矢 麻紀子 (SHIN'YA, Makiko)
大阪産業大学・教養部・教授
研究者番号：70389203

湯澤 直美 (YUZAWA, Naomi)
立教大学・コミュニティ福祉学部・教授
研究者番号：00277659

藤田 美佳 (FUJITA, Mika)
奈良教育大学・教育学部・特任准教授
研究者番号：80531087

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

多くの実践家、研究者にご協力を賜った。
芳名を下記する。(順不同)

見城 慶和 (KENJYO, Yoshikazu)

草 京子 (KUSA, Kyoko)

須田 登美雄 (SUDA, Tomio)

森 康之 (MORI, Yasuyuki)

野山 広 (NOYAMA, Hiroshi)

工藤 慶一 (KUDO, Keiich)

関本 保孝 (SEKIMOTO, Yasutaka)

榎本 博次 (ENOMOTO, Hirotsugu)

野川 義秋 (NOGAWA, Yoshiaki)

大谷 一代 (OOTANI, Ichiyo)

中川 理恵 (NAKAGAWA, Rie)

岡田 敏之 (OKADA, Toshiyuki)

庄司 匠 (SHOJI, Takumi)

棚田 洋平 (TANADA, Yohei)

澤井 留里 (SAWAI, Ruri)